

乳幼児の言葉の育ちに関する現状と課題 (3)

—幼稚園児と保育園児の家庭における「おはなし」経験の比較検討—

小山 祥子

Children's Language Growth & Development (3): Comparing Family Home Experiences Between Nursery School and Kindergarten Children

Shoko KOYAMA

本研究は、同テーマ (1) (2) に引き続き、幼児の言葉の育ちに関する現状と課題の一端を明らかにしようとしたものである。本稿は、家庭における幼児の過ごし方と保護者の認識から、「見るおはなし」としての「絵本」や、「聴くおはなし」としての「昔話」の経験について、幼稚園児と保育園児を比較検討した。結果、家庭における幼稚園児と保育園児のおはなし経験は、保育時間の相違から生ずる経験の相違はあるが、保護者の子どもへの対応そのものに大きな相違はなかった。また、昔話に対する保護者の認識は、その有用性を疑問視する保護者もあり、家庭で積極的に語られていないことが保育園児の家庭にも認められた。毎日読み聞かせをする家庭は、幼稚園児と保育園児ともに3割弱あり、就寝前の読み聞かせ習慣は、幼稚園児の家庭に多く、文字習得を目的とする傾向も強かった。その一方で、保育園児の保護者は、子どもの主体的な興味に委ねる傾向にあることが認められた。

キーワード: 言葉 おはなし 絵本 昔話 幼稚園児 保育園児

1. はじめに

本研究テーマの第2報¹⁾において、子どもを取り巻く「おはなし」の環境を、保育者と保護者の認識の比較から、現状と課題を明らかにした。

そこでは、保育の現場は、保育者自身の趣向に影響された教材や題材が選択されることが多く、おはなしについて計画的な実践がなされていない現状と、幼稚園と保育所では、おはなしの時間帯と選択される話の分野に異なる特徴があることが明らかになった。その特徴については、幼稚園と保育所の機能の違いによるものと考察したが、ここでも「言葉」の領域において計画的な指導案作成にいたっていないことが危惧された。また具体的に実践された題材からは、視聴覚教材を用いたおはなし活動に偏り、特に習得に時間を要する素話は保育者から敬遠される傾向が強く見られた。

一方、家庭においては、絵本などに触れる物的環境は整っているが、内容は創作系の分野が多かった。特に、

昔から語り継がれる民話や昔話が積極的に選択されることはあまりなく、保護者側は一方的に、園側にその役割を委ねている傾向もみられ、昔話に対する子どもへの影響に否定的な意見も無視できない数値であった。

つまり、お話に関する物的環境は、種類や数の面で豊かになっている保育現場や家庭ではあるが、その選択においては趣向による題材の偏りと、昔話に触れられる機会があまりない現代の幼児を取り巻くおはなし環境の現状も明らかになった。

先の第2報の保護者への調査は、幼稚園児の保護者を対象とした結果であったため、保育時間が長い保育所に通う園児の家庭におけるおはなし経験を検証する必要があることが課題となった。

そこで、本第3報では、保育園児の家庭におけるおはなしの環境を同様に調査し、幼稚園児と比較してみることで相違や特徴を明らかにし、その分析から、乳幼児の言葉の育ちに関する現状と課題の一端を捉えることを

目的とした。

2. 研究方法

保育所に通う幼児クラスの保護者に対し、家庭における「おはなし」活動の実態と保護者の認識について質問紙による調査を実施した。

【調査対象】

都内社会福祉法人保育所3園に依頼し、3・4・5歳児をもつ保護者187名に質問紙を配布、60名から回答を得た。回収率は32%である。

【調査時期】平成24年7月～10月

3. 研究結果

保育園児の家庭における「おはなし」活動の現状と保護者の認識については、以下のような結果であった。結果には、幼稚園児との比較のため、前回の調査結果を再掲した。(太字枠内が本調査結果。表中の数値は小数点以下四捨五入で表記した。)

(1) 回答者の属性等

①回答者は、母親97%、父親3%であった。

②保護者の通勤時間について

3歳児保護者は約56分、4歳児保護者は約68分、5歳児保護者は約72分で、全回答者の平均通勤時間は約63分であった。

③子どもと祖父母との関係について

【表1】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
よく関わっている	33	46	18	20	20	17	24	32
時々関わっている	39	32	49	60	47	33	45	42
年に数回関わっている	29	18	31	15	33	33	31	20
あまり関わっていない	0	4	2	5	0	17	1	7
全く関わっていない	0	0	0	0	0	0	0	0

保育園児の方が、幼稚園児よりも祖父母と日常的に関わっている割合が高い。また、幼稚園保育園を問わず、低年齢児の方が、より祖父母と関わる機会が多い。就業している保育園児の保護者にとって、祖父母は、育児の援助者として子どもとの関わる頻度が高いことがわかる。

(2) 子どもの平日の過ごし方について

①朝食後～登園まで(複数回答)

朝食後から登園するまでの間の子どもの過ごし方について、上位3位までを複数回答してもらった結果が表2

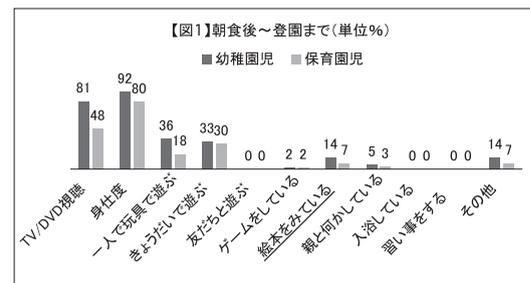
と図1である。

幼稚園児、保育園児ともに朝の時間帯は「身仕度をする」に時間を費やし、それ以外は「TVやDVDを観る」、「きょうだいで遊ぶ」等で過ごしていることが多い。「TVやDVDを観る」幼児は、幼稚園児は保育園児の約2倍、「絵本をみている」割合はどちらも低い、こちらも幼稚園児と保育園児では2倍のポイント差があり、朝の時間帯に「絵本をみている」幼児は幼稚園5歳児が一番高かった。

その他の回答には、幼稚園児は「母親の手伝い」や「習い事の練習」があり、保育園児には「手伝い」のほか、「ごろごろしている」「時間がない」等の回答があった。

【表2】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
TV/DVDを観る	87	43	80	50	76	58	81	48
身仕度している	94	79	90	90	91	67	92	80
一人で玩具で遊ぶ	37	21	29	15	42	17	36	18
きょうだいで遊ぶ	33	43	31	15	36	25	33	30
ゲームをしている	4	4	0	0	2	0	2	2
絵本をみている	10	4	8	5	22	17	14	7
親と何かしている	6	0	6	10	4	0	5	3
その他	6	11	16	5	20	0	14	7



②帰宅後～夕食前まで(複数回答)

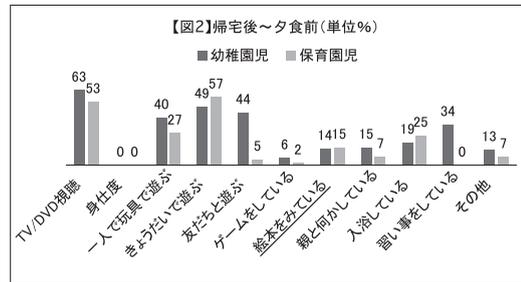
帰宅後から夕食前までの間の子どもの過ごし方について、上位3位までを複数回答してもらった結果が表3と図2である。

幼稚園児は、「TVやDVDを観る」以外に、「きょうだいで遊ぶ」「友だちと遊ぶ」「一人で玩具で遊ぶ」「習い事をする」等で過ごしているのに対し、保育園児は「きょうだいで遊ぶ」が多く、次いで「TVやDVDを観る」であった。「友だちと遊ぶ」には、幼稚園児と保育園児の間にポイント差が見られるが、降園時間が数時間単位で異なる生活時間では、当然の結果である。「絵本をみている」子どもは、保育園の5歳児が一番高く、

年齢によって若干の差はあるが、平均値としては幼稚園児 14%、保育園児 15%とほぼ同ポイントであった。

【表 3】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
TV/DVDを観る	64	46	65	70	60	42	63	53
入浴している	25	39	10	10	22	17	19	25
一人で玩具で遊ぶ	44	32	37	35	38	0	40	27
きょうだいで遊ぶ	50	61	43	40	55	75	49	57
ゲームしている	4	4	10	0	4	0	6	2
絵本をみている	15	11	16	5	9	33	14	15
友だちと遊ぶ	39	4	45	10	47	0	44	5
親と何かしている	19	4	16	10	9	8	15	7
習い事をしている	14	0	45	0	44	0	34	0
その他	15	0	10	15	13	8	13	7



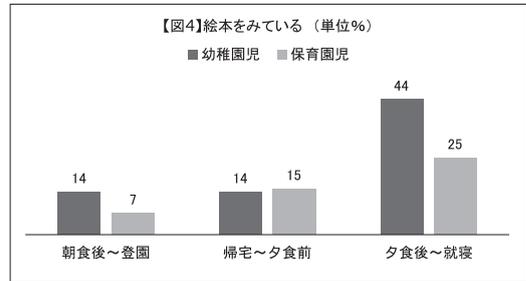
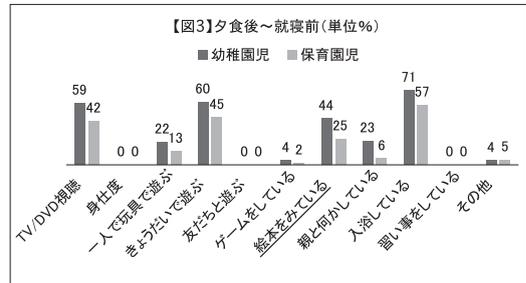
③夕食後から就寝前まで(複数回答)

夕食後から就寝前までの間の子どもの過ごし方について、上位3位までを複数回答してもらった結果が表4と図3である。

夕食後は「入浴している」「TVやDVDを観る」「きょうだいで遊ぶ」が上位であるが、「絵本をみている」割合も増え、幼稚園児 44ポイント、保育園児 25ポイントと比較の高い。図4は、①～③の時間帯別の子どもの過ごし方の中から「絵本をみている」活動を抽出した結果である。一日の中でも特に、就寝前に「絵本をみる」子どもが多かった。

【表 4】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
TV/DVDを観る	46	46	63	35	67	42	59	42
入浴している	60	50	78	65	75	50	71	57
一人で玩具で遊ぶ	31	14	18	15	16	8	22	13
きょうだいで遊ぶ	50	46	65	45	64	42	60	45
ゲームしている	6	4	2	0	4	0	4	2
絵本をみている	52	21	33	25	46	33	44	25
友だちと遊ぶ	1	0	0	0	0	0	0	0
親と何かしている	31	7	20	10	18	0	23	6
その他	4	7	2	5	6	0	4	5



「絵本をみている」際、子ども一人で見ているのか、親に読んでもらっているのか、その形態まではこの結果ではわかりにくいですが、回答項目の「親と何かをしている」や、その他の回答欄に「寝る前に絵本を読み聞かせしている」という回答もあり、就寝前に親子で絵本をみる形態が多いことが推察できる。

就寝前に「親と何かをしている時間」は、幼稚園児平均 23ポイントに対し、保育園児平均 6ポイントで4倍の開きがあった。

(3) 家庭での絵本に関する経験状況について

①子どもが家庭で絵本に触れる環境は?

【表 5】

	幼稚園児	保育園児
図書館の利用	39%	18%
園の貸し出し絵本の利用	30%	22%
月刊絵本の購読	53%	22%
全幼児絵本蔵書平均冊数	54冊	43冊
3歳児平均冊数	37冊	43冊
4歳児平均冊数	57冊	37冊
5歳児平均冊数	69冊	62冊

図書館の利用、園の貸出絵本の利用、月刊絵本の購読については、幼稚園児と保育園児に特徴がみられた。特に、図書館利用や月刊絵本購読については2倍以上のポイント差があった。これは保護者が、就業者なのか家事専業者なのかによって、子どもと過ごす時間

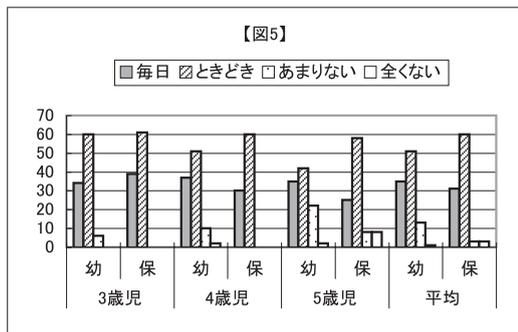
の違いから生じることであると推測できる。月刊絵本購入についての違いは、経済的環境によるものか、保護者の意識の違いによるものか、購入の機会の有無によるものか、本結果から真意は不明である。

家庭の絵本の蔵書数には、大きな違いは見られず、ほとんどの家庭に幼児向けの絵本が備えられていることがわかる。

②子どもから「絵本を読んで」と言われることはあるか？

【表6】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
毎日	34	39	37	30	35	25	35	31
ときどき	60	61	51	60	42	58	51	60
あまりない	6	0	10	0	22	8	13	3
全くない	0	0	2	0	2	8	1	3

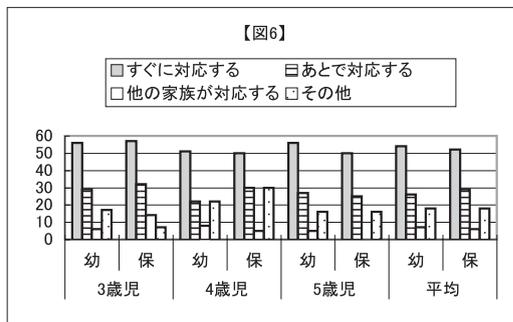


幼稚園児と保育園児の間に大きな相違は見られないが、どちらも年齢を追うごとに絵本を読んでほしいという割合が減少傾向にあることが共通している。一般的に、年長児になると絵本を自分で読もうとしたり、自分で読みたいという意思が働いたりするなどの成長による相違として考えられる。

③「読んで」と言われた時の保護者の対応は？

【表7】(複数回答:幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
すぐに対応する	56	57	51	50	56	50	54	52
あとで対応する	29	32	22	30	27	25	26	29
他の家族が対応する	6	14	8	5	5	0	7	6
その他	17	7	22	30	16	16	18	18



幼稚園児と保育園児の保護者の対応に大きな相違は見られない。「すぐに対応する」は、幼稚園児の保護者の方が若干高く、「あとで対応する」は、保育園児の方が高かった。これらは、子どもと一緒に過ごす生活時間帯の違いや家族構成の違いによるものと推測できる。

④子どもが「絵本を読んで」と言う時の理由は？

【表8】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
純粋に読んでもらいたい	77	75	63	75	58	58	66	69
甘えたい	15	14	18	25	20	33	18	24
他にすることがない	0	0	6	0	6	0	4	0
いつもの習慣	19	18	27	15	27	8	24	14
その他	6	0	4	0	2	8	4	3

この回答は、保護者が子どもの気持ちを推測した回答である。数値そのものからは、幼稚園児と保育園児の相違はないが、どちらも年齢を追うごとに「甘えたいから」という理由で絵本を読んでもらいたいと思う幼児が増加していることが読み取れる。年齢が高くなれば、能力的に自分で読むことができるようにはなる一方で、精神的に甘えたいという幼児期の特徴が数値に表れている。絵本が文字の習得以外の面で、幼児期に大切な役割があるのかを間接的に示唆している結果と考える。

⑤子どもに絵本を読む頻度は？

【表9】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
毎日	21	25	33	30	31	25	28	27
週に数回	54	50	39	45	38	42	44	47
あまりない	23	18	29	25	31	33	28	23
全くない	2	4	0	0	0	0	1	2

幼稚園児、保育園児ともに同じような傾向が見られた。

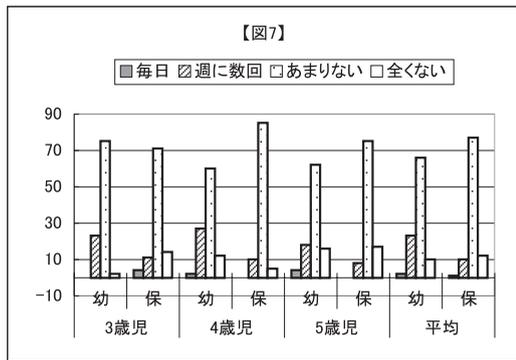
毎日子どもに読み聞かせをしている保護者が約3割いるのに対し、あまり読まない保護者と全く読まない保護者は合わせて3割弱である。

しかし、全体として7割強の保護者は、毎日または1週間に数回程度、絵本を読み聞かせているということがわかる。

⑥子どもに昔話を聞かせる頻度は?

【表10】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
毎日	0	4	2	0	4	0	2	1
週に数回	23	11	27	10	18	8	23	10
あまりない	75	71	60	85	62	75	66	77
全くない	2	14	12	5	16	17	10	12



こちらも、幼稚園児と保育園児の家庭における昔話の状況は似ている。つまり、7割前後の保護者は家で昔話を聞かせることはしていないが、保育園児の保護者よりも幼稚園児の保護者の方が、一週間に数回昔話を聞かせている割合が高く、平均値では2倍以上の開きがあった。

⑦子どもが昔話を知る手段は?

【表11】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
園の先生	56	43	47	70	47	42	50	52
親・兄・姉	14	14	10	5	15	0	13	6
祖父母	8	4	6	0	2	0	5	1
絵本	40	29	39	30	56	58	45	40
TV/DVD等	10	14	16	10	7	0	11	8

幼稚園児、保育園児の保護者ともに、幼稚園や保育園の先生が昔話を語ってくれているものと思っている。

次いで、昔話絵本などで知る場合がほとんどであることが示された。

⑧昔話は、子どもの育ちに必要だと思うか?

【表12】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
思う	77	54	84	70	80	58	80	61
思わない	0	4	0	0	0	0	0	1
どちらともいえない	23	36	16	30	18	33	20	33
無回答	0	7	0	0	2	8	0	5

昔話を子どもの育ちとして肯定的に捉えている保護者は、幼稚園児保護者は8割、保育園児保護者では6割と開きがあり、明らかな否定ではないが「どちらともいえない」と肯定していない保護者が幼稚園児保護者で2割、保育園児保護者で3割いることがわかった。

⑨その理由は?

ア。「思う」の理由

【表13】(自由記述、36名の回答集約)

思いやりや助け合いを子どもに伝えたい
日本の伝統や言葉を楽しく伝えたい
心豊かになってほしい
温故知新である
道徳教育につながるから
生きていく術やルールがわかる
純粋な気持ちをいつまでももってほしい
文化を伝承してほしい
教訓として必要だから
誰もが知っていて共有できるから
正義や物事の善悪を教えてくれる
知恵や勇気が自然に伝わる
おもしろい
語り継がれるものだから
人のために生きれば神様が助けてくれる

イ。「どちらともいえない」の理由

【表14】(自由記述21名の回答集約)

絵本だけでよいと思う、絵本で十分
教訓になるものと思うでないものがある
残酷な内容のものがあるから
現時点では難しく理解できないと思う
子どもが興味を持たず、必要性を感じない
怖い話が多い
大人になってからでもよいと思う
必ずしも昔話の方がよいとは思えない
昔話より良いものが他にある
子ども向きではないと思う
現実世界と話の世界がどう伝わっているか疑問
興味を示した時が必要な時だと考えている

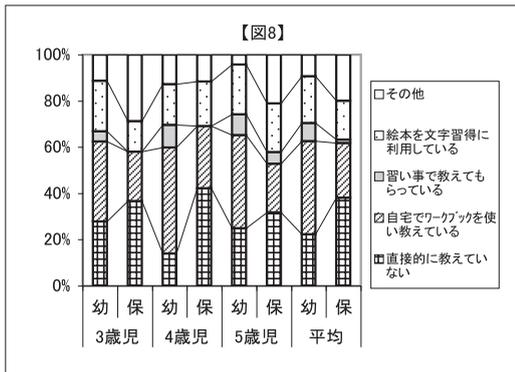
昔話を幼児期にどのように語り伝えていくのか、肯定・否定意見共に第2報の幼稚園児の保護者とほぼ同意見の記述が見られた。日本の伝統文化や教訓を伝えるものとして肯定的である反面、内容の残酷さが幼児期には不向きと考える保護者がいる。

(4) 文字の習得に関する保護者の認識について

①文字の習得の現在の様子は? (複数回答)

【表15】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
直接的に教えていない	37	50	20	55	36	50	31	52
自宅でワークブックを使い教えている	46	29	65	35	58	33	56	32
習い事で教えてもらっている	6	0	14	0	13	8	11	2
絵本を文字習得に利用している	29	18	25	25	31	33	28	23
その他	15	39	18	15	6	33	13	27

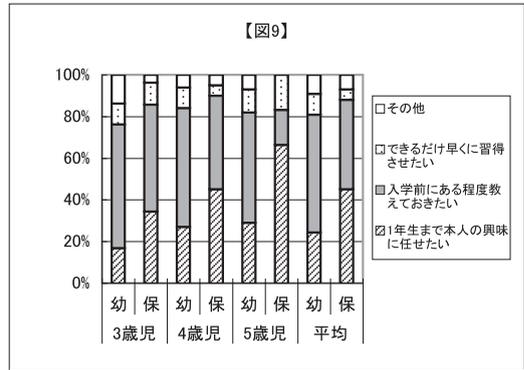


保育園児の保護者は、どの年齢においても「直接的に教えていない」傾向があり、幼稚園児の保護者は、ワークブックを使用したり、習い事等で第三者から教えてもらったりして、子どもの文字の習得に積極的に関わっていることが数値から読み取れる。絵本を文字習得の目的として利用している割合は、両者ともに3割前後いることがわかった。

②文字の習得時期はいつ頃が適切と思うか?

【表16】(幼稚園児→幼、保育園児→保と表示、単位:%)

	3歳児		4歳児		5歳児		平均	
	幼	保	幼	保	幼	保	幼	保
1年生まで本人の興味に任せたい	17	36	27	45	29	67	24	45
入学前にある程度教えておきたい	60	54	57	45	53	17	56	43
できるだけ早くに習得させたい	10	11	10	5	11	17	10	5
その他	14	4	6	5	7	0	9	7



こちらも幼稚園児の保護者と保育園児の保護者に明らかな違いがある。「1年生まで本人の興味に任せたい」割合は、幼稚園保護者は平均24%に対し、保育園保護者は平均45%と2倍近くの開きがある。「できるだけ早くに習得させたい」と考える保護者も幼稚園児保護者に多い。その他の回答には、「名前だけは先に教える」、「兄姉から刺激を受けた時教える」、「興味を示した時、その都度教える」等の記述があった。

4. 考察

以上の結果から、幼稚園児と保育園児の家庭における子どもの「おはなし」の経験を、平日の過ごし方と保護者の認識から考察する。

(1) 平日の過ごし方からの考察

幼稚園児と保育園児とでは、家庭で過ごす時間の長さが異なるため、単なる量的な比較ではなく、幼児期特有のおはなしに対しての保護者のかかわりに注視してみる。

平日に「図書館を利用する」にはどうしても保護者の付添なくしては幼児だけでは利用できない。利用者が幼稚園児の方が多い結果は想定内である。子どもが自宅

で絵本を手取る環境かどうかは、ある程度蔵書数から読み取れる。実際に絵本の蔵書数は、幼稚園児と保育園児の平均冊数に差はほとんどない。最も多い家庭で幼稚園児 150 冊、保育園児 100 冊、最も少ない家庭で幼稚園児 15 冊、保育園児 15 冊であり、幼稚園児か保育園児かよりも各家庭による蔵書差である。一方、幼児の場合は、絵本の蔵書数よりも、どれだけ子どもと一緒に絵本に関わる大人がいるかが重要である。同居の有無にかかわらず、祖父母と関わっている幼児は保育園児に多く、就業中の保護者の代わりに絵本に触れる機会は、時間的には可能である。子どもから「絵本を読んで」と働きかける状況は、幼稚園児・保育園児にかかわらず 3 歳児に多く、年齢を追うごとに減少していた。このことは、一人で読めるようになっていく子どもの成長であるのか、読んでくれる人的環境が乏しくなっていくのか、絵本よりも他のものへの興味関心が増えていくためか、さまざまな理由が考えられる。

子どもが「絵本を読んで」と言ってきた時の対応は、保育園児の保護者は、家庭で子どもと過ごす時間は量的に少ないにもかかわらず、「すぐに対応する」は、幼稚園児の保護者とほとんど変わらなかった。また保護者が子どもに絵本を読む頻度は、「毎日」「週に数回」を合わせると幼稚園児は 72 ポイント、保育園児 74 ポイントと大差なく、むしろ保育園児の方が若干高くなっていた。つまり、一般的に保護者が子どもに対応する時間に量的相違がある幼稚園児・保育園児ではあるが、実際の保護者の対応や認識に大きな相違はないといえるであろう。

さらに、子どもが絵本をみている時間帯は、幼稚園児、保育園児ともに、夕食後から就寝前までに集中していたことは、絵本をみる時間帯として最適な時間帯といえるだろう。朝夕の家事のあわただしい時間帯よりも、一日の終わりに子どもも保護者もゆっくりと無理なく対応できる時間帯に「おはなしの時間」として習慣付ける意義が見いだせる。

(2) 保護者の認識からの考察

子どもが絵本に触れるには、そばにいる大人の役割が非常に大切となる。家庭で、保護者がどのように絵本を捉えているかによって、子どもの絵本の経験量も異なる。さらに、絵本を用いずに語られるおはなし（素話）について、保育園や幼稚園では避けられる傾向から、家庭の経験を調査したわけであるが、実際、語られるおはなしの代表格としての昔話は、保育園児の家庭でもほとん

ど語られていない。今や幼稚園や保育園で経験することに期待せざるを得ない現状である。一方、子どもの育ちに昔話が有用と思えない保護者の存在も幼稚園・保育園側は認識していかなければならないだろう。

内田・浜野・後藤（2009）は、読書量が多い幼児ほど言語能力が発達すること、塾で読み書きの学習を受けるよりも多様なジャンルの読書経験が語彙力の伸張に関連することを明らかにしている。筆者も、絵本は子どもが文字に興味関心を示す最も身近にあるものであり、その後の言葉の獲得を豊かにしていく最適なものと考えている。しかしながら、幼稚園児の家庭においては、絵本を文字習得の目的にしていたり、ワークブックを使用したり、習い事をさせたりして、直接的文字教育を好む傾向があった。それに反して、保育園児の保護者は、直接教えることはあまりせず、就学まで本人の興味に委ねるといった養育姿勢が顕著であった。この相違の理由については、本調査からだけでは判明はつかないが、就学前に生活する場として幼稚園・保育園側は、「おはなし」と文字教育について保護者の認識を知っておくことも、保育内容を考えていく上で必要であると思われる。

5. おわりに

就学前の幼児が「おはなし」に触れる経験は、その後の言語分野の発達と語彙力を育む上で重要である。幼児が幼稚園や保育園以外のところで「おはなし」に触れるには、主たる家庭において、適切な時間と人の環境が必要となる。本研究では、家庭における幼児の過ごし方と保護者の認識に関する調査から、「見るおはなし」としての「絵本」や、「聴くおはなし」としての「昔話」の経験について、幼稚園児と保育園児を比較した。結果として、家庭における「おはなし」経験そのものについては、幼稚園児と保育園児に大きな相違はなかった。特に、就寝前に保護者と一緒に楽しむ「おはなし」の経験は幼児期ならではの大切な時間であることも明らかになった。その一方で、幼稚園児と保育園児の保護者の昔話に対する有用性への疑問が共通認識としてあげられ、文字習得に対する考え方には、相反する養育姿勢があることが認められた。

本研究を含め、一連の研究で明らかになった昨今の幼児の言葉の育ちに関する現状と課題は、幼稚園や保育園の「おはなし」に関する保育内容の検討に参考となり得るよう、今後、本研究テーマの（1）～（3）を横断的に分析していきたいと考える。言葉を育む幼児期

に、よりよい経験がもたらされることを望みたい。

【参考文献】

- 1) 駒沢女子短期大学研究紀要 45 号, 2012 年 3 月.
- 2) 厚生労働省発行「保育所保育指針解説書」, 平成 20 年 3 月.
- 3) 内田伸子・浜野隆「世界の子育て格差」金子書房, 2012.
- 4) 小澤俊夫「改訂 昔話とは何か」小澤昔ばなし研究所, 2009.
- 5) 松岡享子「お話とは」東京子ども図書館, 2009.
- 6) 福田誠治「子育ての比較文化」久山社, 2000.

【謝辞】

本研究（3）にあたり、質問紙にご協力いただきました3園の保育所関係者の皆様とご回答いただきました保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。